

Śrīparamādyamantrakalpakhanda

—Mahāsukhavajraguhya 1* (「冒頭章」*1)—

密教聖典研究会

はじめに

本論文は Śrīparamādyā (『理趣広経』) チベット語訳の校訂テキストの提示を主たる目的とするものである。現行のチベット語訳本は、チベット大蔵経において、前篇の Śrīparamādyā-nāma-mahāyānakalparāja (略称「般若分」)、および後篇の Śrīparamādyā-mantrakalpakhanda (略称「真言分」) に二分されて収蔵されており、各篇の訳者も異なっている。さらに後篇の「真言分」は、二篇に分けることが可能であり、現行のチベット語訳本は、都合、三篇の経軌の合本であることが明らかにされている。この三篇の各篇は、「大楽金剛不空三昧耶」(第一篇)、「大楽金剛秘密」(第二篇)、「吉祥最勝本初」(第三篇)とも称され、チベット大蔵経に収蔵されている形態との対応関係は、「般若分」=「大楽金剛不空三昧耶」(第一篇)、「真言分」=「大楽金剛秘密」(第二篇)+「吉祥最勝本初」(第三篇)となる。

本研究会では、「大楽金剛不空三昧耶」の校訂テキストをすでに報告し終えており*2、本稿より「大楽金剛秘密」の校訂テキストを報告することになる。この「大楽金剛秘密」については、理趣経略本系統との密接な関係を有する「大楽金剛不空三昧耶」、および後代の主要な密教文献に大きな影響を与えた「吉祥最勝本初」と比較して、顕著な特徴や関連文献がこれまで見いだされてこなかったため、研究対象とされることが少なかった。しかし、ごく最近、インド仏教最後期にヴィクラマシーラ寺院の学頭と

1 本論文では、本経軌 Mahāsukhavajraguhya (「大楽金剛秘密」) における本来の「第1章」と峻別するために、「冒頭章」という特殊な呼称を用いていることに注意されたい。本経軌には、教主と説処を明らかにする本来の「第1章」の前に、理趣経略本の系統の「深秘の法門」(不空訳では第17段, AdhS§37-39) に相当する一章、すなわち、本論文において報告する「冒頭章」が挿入されている。福田 [1987, p.86; p.94] は、「冒頭章」を略本から広本へのつなぎ目の章として位置づけており、増広過程における操作によって「冒頭章」が現行の位置に配置されたと考察している。本稿では、ひとまず当該章を「冒頭章」として称することにし、「冒頭章」と「大楽金剛秘密」の関係、さらには「冒頭章」と『理趣広経』全体の関係をめぐる考察は、今後の研究課題としておきたい。本論文の副題中の「1」に付したアステリスク() は、以上のような事情を反映したものである。なお、「冒頭章」の詳細は本論文2を参照されたい。

*2 本稿末尾の参考文献表 (『理趣広経』の翻訳研究会 (現密教聖典研究会)[2013]-[2016]、密教聖典研究会 [2017][2018]) を参照。

して活躍した Abhayākara Gupta の主要著作 *Āmnāyamañjarī* の新出資料が見いだされたことにより、「大楽金剛秘密」に説かれている一偈が当文献に引用されていることが明らかになった^{*3}。ここでは *Mahāsukhavajraguhyā* (= 「大楽金剛秘密」) という名で引用が示されていることから、梵語におけるその経軌名がつまびらかとなり、従来チベット語からの還梵によって推測されていた名称に誤りのないことがわかった。この発見により、「大楽金剛秘密」も後代のインド密教文献に具体的な形で足跡を残していたことになり、*Śrīparamādyā* という長大な密教文献の重要性を全体にわたって再認識することができた。

以下では、*Mahāsukhavajraguhyā* (「大楽金剛秘密」) チベット語訳校訂テキストを報告するのに先立ち、本経軌チベット語訳の翻訳事情に関する近年の研究成果や、本論文において報告する校訂部分 (「冒頭章」) のシノプシスや特徴を整理することにした。

なお、本年度の研究会のメンバーは以下の通りである。

- 駒井信勝 (本学非常勤講師・研究会代表)
- 苫米地等流 (人文情報学研究所主席研究員)
- 種村隆元 (本学准教授)
- 倉西憲一 (本学非常勤講師)
- 伊久間洋光 (真言宗豊山派総合研究院宗学研究所研究員)
- 大塚恵俊 (本学非常勤講師)
- 横山裕明 (総合佛教研究所研究員)
- 蓮舎経史 (総合佛教研究所研究員)
- 名取玄喜 (真言宗豊山派総合研究院宗学研究所研究員)
- 伊集院栞 (東京大学大学院博士後期課程)
- 木村美保 (大正大学総合佛教研究所研究生)

1 *Śrīparamādyā* チベット語訳の翻訳事情

本経軌のチベット語訳をめぐっては、川越 [1982, 註 56] [1984, p.115] が指摘しているように、複雑な翻訳事情をうかがうことができる。Bu ston 著 *rNal 'byor rgyud kyi rgya mtshor 'jug pa'i gru gziñs* (『瑜伽タントラの海に入る船』) は、Bu ston 自身が確立した、いわゆる「タントラの四分類法」にもとづくヨーガ階梯のタントラの綱要書として知られるが、当文献に示される *Śrīparamādyā* の翻訳事情に関する記述^{*4} によ

^{*3} 苫米地 [2017, p.116] を参照。

^{*4} *rNal 'byor rgyud kyi rgya mtshor 'jug pa'i gru gziñs* (73r4-5) によれば、Rin chen bzañ po が、Śraddhā-

れば、「真言分」は、当初 Rin chen bzañ po によって翻訳がなされたものの、それは原典の欠落箇所を残したままの未完訳本であったとされる。そこで、新たに原典をカシミールから得て、IHa btsan po Źi ba 'od と Mantrakalaśa の二人が本経全体を完訳したという。この完訳本が、現行のチベット語訳と考えられ、もう一方の Rin chen bzañ po による未完訳本の存在は、今のところ確認されていない。

また、本経の逐語訳として知られる、Ānandagarbha 著 *Śrīparamādyatikā* についても同様の事情のあることが示されており*5, Źi ba 'od と Mantrakalaśa が、Rin chen bzañ po と Śraddhākaravarman による不完全な翻訳の欠落部を補って完訳したとされる。

こうした事情を背景として、徳重 [2015a][2015b] は、本経のチベット語訳プダク写本に注目する。プダク写本は、独自の読みを保持する独立系統として位置づけら

karavarman, Kamalagupta と共に *Nāmasaṃgī* の註釈などの翻訳活動に従事し、さらに、その同じ場所で *Śrīparamādyā* と *Śrīparamādyatikā* の翻訳に着手したとされる。しかし、それらの原典には欠落箇所があったようであり、以下に引用する箇所には、両文献の翻訳事情が詳しく伝えられている。74r1-3: *yañ lo chen gyis lan gnīs pa kha cher byon nas sñar gyi chos rñams la dag ther mdzad | khyad par dpal mchog gi phreñ chad rñams bsab | dum bu dañ po'i rgyud 'grel gnīs ka dag par bcos | sñags dum gyi bar gyi khog chen po dañ | dum bu gnīs pa'i smad dañ | gsum pa dañ | bži pa'i 'grel pa ni | dpe ma rñed pas ma 'gyur ro ||* また大翻訳官 (Rin chen bzañ po) は、再度カシミールへおもむき、以前の[自身が翻訳にたずさわった]諸仏典について訂正をなされ、とりわけ、*Śrīparamādyā* の欠落箇所を補足して、第一篇(「般若分」)のタントラと註釈の両者を修治した。「真言分」中の多くの失われた部分、第二篇の後部、第三篇、第四篇の註釈は、原典を入手できなかったため、翻訳されていない。81r3-7: *de nas lo chen gśeḡs pa'i rjes su | lha pho brañ Źi ba 'od ces bya bas lo pañ mañ pos chos bsgyur ba'i bdag rkyen byas śiñ | khyad par khoñ nīd kyis sgra legs par śes nas 'gyur mañ po mdzad | de'i tshē | kha che skor chu nas dpal mchog rtsa 'grel gyi rgya dpe rñed nas pañḍita Mantrakalaśa dañ gnīs kyis | dpal mchog gi rgyud sñags dum man chad kyi hor koñ thams cad bsab nas legs par bsgyur te | ji skad du | lo ts-tsha chen po rin chen bzañ po yis || dpal mchog dañ po'i rgyud 'di bsgyur ba las || bar bar dpe ma rñed pas ma 'gyur nas || bdag giś 'bad pas dpe btsal rñed pas bsgyur || źes so || 'grel pa'i śer dum dañ | sñags dum gyi stod khog che ba gnīs ni | lo chen gyis bsgyur ba nīd la bźag | sñags dum gyi smad kyi hor koñ rñams bsab ciñ sñar 'gyur ba rñams la'ai 'gyur bcos byas nas dum bu bži ga'i 'grel pa rdzogs par bsgyur ro ||* 次に、大翻訳官 (Rin chen bzañ po) が亡くなった後、王室 Źi ba 'od が、翻訳官や学者に対し、大いに仏典を翻訳することを奨励し、とりわけ、かの Źi ba 'od 御自身が、言葉に精通していることから、多くの翻訳をなされた。その頃、カシミールの sKor chu から *Śrīparamādyā* の根本テキストと註釈の梵本を入手して、学者 Mantrakalaśa と二人で *Śrīparamādyatantra* 「真言分」以下の全ての不足を補い、正しく翻訳したのであって、次のように言われている。「大翻訳官 Rin chen bzañ po が、この *Śrīparamādyatantra* を翻訳していたのだが、ところどころ、原典を入手できず、[本経全体は] 翻訳されていなかったの、私が尽力して原典を探し、見つけたので翻訳した、(*Śrīparamādyamantrakalpakaḥṇḍa* のコロフォン (D 265v7; P 277a7-8) に同一の内容が付記されている)と。註釈の「般若分」と「真言分」前半の二大品は、大翻訳官 (Rin chen bzañ po) が翻訳したものをそのままにし、「真言分」後半の不足部分を補って、以前に [大翻訳官が] 翻訳した部分についてもまた翻訳を修治してから、全四篇の註釈を完訳したのである。

*5 註 4 を参照。

(48)

れ^{*6}、近年、その読みが初期の翻訳の形を残している可能性を指摘する報告もなされており^{*7}、チベット語訳の校訂作業において重要視されている写本である。本経のブダク写本も、他の主要な版と異なる読みを示すことは珍しくなく、その傾向は、後篇 *Śrīparamādyamantrakalpakhaṇḍa* (「真言分」) において顕著である。さらに、ブダク写本と他の主要な版との読みの相違が、異読の範疇を超えて、原文レベルでの相違を予想させる場合も少なくない。

徳重 [2015a][2015b] は、そのような他の主要な版との顕著な相違が確認される「真言分」のブダク写本の読みと、*Śrīparamādyāṭikā* に示される *pratīka* の読みとを比較し、それらが一致する用例を取り上げて考察している。その結果、ブダク写本が、前述した *Rin chen bzañ po* による未完訳本の読みを保持している可能性を指摘している。

この一連の研究成果については、詳細な文献学的研究によってさらなる検証が必要であろうが、本経のチベット語訳の校訂作業を進める上で、特異な読みを保持するブダク写本を無視することはできない。したがって、近年の研究動向を受けて、本研究会においても、ブダク写本を校合する一本に採用することにし、今回報告する「真言分: 大楽金剛秘密」よりブダク写本の読みも提示することにした。なお、その提示方法については、本論文 3 を参照されたい。

2 「冒頭章」について

2.1 シノプシス

「大楽金剛秘密」全体のシノプシスは煩瑣になるため^{*8}、ここでは本論文において報告する「冒頭章」のみ以下に示しておく。

- 1*.1 五句
- 1*.2 百字偈
- 1*.3 得益
- 1*.4 章末コロフォン

2.2 類本間の対応関係

「冒頭章」は、『理趣経』略本の系統に属する不空訳『大楽金剛不空真実三摩耶経』正

^{*6} たとえば、HARRISON[1992, p.xxxii], SILK[1994, p.26—27], SKILLING[1994, Introduction II], ZIMMERMANN[2002, p.177].

^{*7} たとえば、佐藤 [2001, p.38—39], 五島 [2003], TOMABECHI[2009, xlii—xliv], 津田 [2015]. 特に TOMABECHI[2009, xlii—xliv] は、理趣経略本に位置づけられる *AdhŚTib* のブダク写本が、他の主要な版に存在しない古い読みを保持している可能性を指摘している。

^{*8} *Śrīparamādyā* 全体の構成が、福田 [1987, pp.90—93], 田中 [2010, p.177], 徳重 [2015, pp.(158)—(160)] などによって示されている。

宗分の「深秘の法門」*⁹(第17段)に対応する。この不空訳は、「各具の法門」(第16段)に続いて、「冒頭章」に対応する「深秘の法門」(第17段)、「金剛手称讃偈」、そして、その称讃偈の最後の一偈を以て「流通」とし經典を締めくくる(「各具の法門」→「深秘の法門」→「金剛手称讃偈」)。

また、同じ『理趣經』略本の系統に属する AdhŚ, AdhŚ_{Tib} は、不空訳とは異なり、「各具の法門」 (§33, 33*, 34, 34*)¹⁰→「金剛手称讃偈」 (§35, 36)→「深秘の法門」 (§37, 37*, 38, 39)¹¹の順で説かれている。そして經典の末尾は、不空訳にはない、世尊の教説を称讃する散文 (§42, 43) によって締めくくられている*¹²。

一方、広本の系統に属する本経軌では、「各具の法門」「金剛手称讃偈」までが第一篇「大楽金剛不空三昧耶」に説かれ、「深秘の法門」、すなわち本論文で報告する「冒頭章」から第二篇「大楽金剛秘密」が始まる。三つの法門の説かれる順序だけに注目すれば、本経は、AdhŚ, AdhŚ_{Tib} と一致するものの、「深秘の法門」(「冒頭章」)が、「各具の法門」「金剛手称讃偈」と篇を隔てている点の特異な点であり、本経の編纂過程において何らかの意図を以て操作がなされたと考えられる。

2.3 特徴

では、「冒頭章」の特徴について整理しておきたい。まず、章末コロフォンに注目してみると、「大楽金剛不空三昧耶、吉祥最勝本初より、一切如来の大楽金剛秘密の般若波羅蜜の門終わる」とあり、Śrīparamādyā を構成する三篇の名称が不自然に混在していることに気づく*¹³。すなわち、第一篇は「大楽金剛不空三昧耶の大儀軌王より」、第二篇は「大楽金剛秘密の大儀軌王より」、第三篇は「吉祥最勝本初の大儀軌王より」というように、本経全体を通じて、各篇の名称に続いて各章の法門や儀軌の名称が示されているため、統一を図るのであれば、当該の「冒頭章」は、「大楽金剛秘密の大儀軌王より、般若波羅蜜の門終わる」という形が想定される。しかし、実際には「大楽金剛不空三昧耶、吉祥最勝本初より」という第一篇、第三篇の名称が列挙された後、「大楽金剛秘密」の般若波羅蜜の門」という法門が示されることから、形式上、不自然な章末コロフォンであり、この記述だけでは、当該の「冒頭章」が全三篇のう

*⁹ 以下、本論文において使用した法門の名称は、梶尾 [1930] において使用されている伝統的な名称に従った。なお、真言宗祖弘法大師空海は、その著作『真実經文句』において、不空訳『大楽金剛不空真実三昧耶經般若波羅蜜多理趣經』に依拠しながら、当該の章を「五種秘密三摩地章」と称している。

*¹⁰ AdhŚ_{Tib} はアステリスクを付したセクションを欠く。

*¹¹ 同上。

*¹² この類本間の相違に関する問題は、松長 [2006, pp.248—250]、加納 [2011, pp.220—222] を参照。

*¹³ このことは、福田 [1987, p.93—94] において言及されており、当該の「冒頭章」が理趣經の広本化を考える上で重要な位置にあることを示唆している。

ち、いずれの篇に属する章品なのかを判断しがたい。このような章末コロフォンにおける不自然な点も、前述したような本経軌の編纂過程における操作の足跡と見ることができよう。

次に、2.1のシノプシスにおいて示したように、「五句」によって「冒頭章」の教説が始まる点に注目したい。不空訳と同様の「十七清浄句」を説く第1章を除いて、第一篇「大楽金剛不空三昧耶」各章が、教説者である主尊の境地を四つに開示する「四句」より法門を展開していく構成であることをふまえれば、「冒頭章」の「五句」は異質である。この点に関して、不空訳『大楽金剛不空真実三昧耶経般若波羅蜜多理趣积』（『理趣积』）は、第1章所説の「十七清浄句」の教理を尊格化した十七尊曼荼羅を始めとして、第2章以降の各章冒頭の「四句」によって示される教理を、各章所説の曼荼羅の主尊を取り囲む四尊に対応させて註釈することが多く、当該の「冒頭章」の「五句」も、五秘密曼荼羅と通称される図像の五秘密尊と関連付けて註釈している^{*14}。したがって、本章は、五秘密尊を中心に据え、単独の儀軌として流布していった「金剛薩埵儀軌類」^{*15}と称される儀軌と密接な関係を有していることから、理趣経系の儀軌類を扱う上でも重要な位置にあることがわかる。

3. 校訂テキストの構成

本論文におけるテキストの構成は以下の通りである。まず、次節4に示す、主要なチベット大蔵経諸版（DからT）を校合したチベット語訳テキストが示され、その後後に、特異な読みを保持するブダク写本（Ph）を転写したテキストが続く^{*16}。各セクシ

^{*14} 『理趣积』616c15—617a1: 所謂菩薩摩訶薩大欲最勝成就故得大樂最勝成就者此是欲金剛明妃菩薩三摩地也。菩薩摩訶薩大樂最勝成就故即得一切如來大菩提最勝成就者。此是金剛髻梨吉羅明妃菩薩三摩地。菩薩摩訶薩得一切如來大菩提最勝成就故即得一切如來摧大力魔最勝成就者。此是大樂金剛不空三昧耶金剛薩埵菩薩三摩地也。菩薩摩訶薩得一切如來摧大力魔最勝成就故即得遍三界自在主成就者。此是愛金剛明妃菩薩三摩地也。菩薩摩訶薩得遍三界自在主成就故即得淨除無餘界一切有情住著沈淪以大精進常處生死救攝一切利益安樂最勝究竟皆悉成就者。此是金剛慢明妃菩薩三摩地。此五種三摩地。秘密中最秘密。

なお、直後の「百字偈」として知られる五つの偈頌によって示される教説内容も、五秘密尊と関連付けて註釈されている。617a6—18: 菩薩勝慧者乃至盡生死恒作衆生利而不取涅槃者。此是金剛薩埵菩薩三摩地行願義如上文應知耳。般若及方便智度所加持諸法及諸有切皆清淨者。此是慾金剛明妃菩薩三摩地行般若波羅蜜義攝也。慾等調世間令得淨除故有頂及惡趣調伏盡諸有者。此是金剛髻梨吉羅明妃三摩地行大靜慮義攝也。如蓮體本淨不爲垢所染諸慾性亦然不染離群生者。此是愛金剛明妃三摩地行大悲所攝也。大慾得清淨大樂富饒三界自在能作堅固利者。此是金剛慢明妃三摩地行大精進所攝也。

『理趣経』関連文献に説かれる五秘密尊の図像に関する研究は、川崎 [2011] を参照。

^{*15} この文献群の詳細は福田 [1987, p.54-67] を参照。また五秘密尊の関連儀軌の内容に関する比較検討が福田 [1987, p.33-53] においてなされている。

^{*16} ブダク写本を単独で扱う理由については、本論文1を参照。

ョンのタイトル下部には、*Śrīparamādyā-mantrakalpakhaṇḍa*, *Śrīparamādyā-ṭikā*, そして対応する *Ādhyardhaśatikā Prajñāpāramitā* のロケーションを並記し、ページ下部の脚注は、パラレルや類似の記述を確認できるテキストを示す上層と、提示しているチベット語訳校訂テキストに関する異読を示す下層の2層に分かれている(必ずしも各ページに2層すべてが現れるわけではない)。なお、下層部分は、註記される箇所 of 行番号の後に見出し語があり、その次に異読などの註記が続く。

4. 資料

本論文において使用した資料は以下である。

Śrīparamādyā-mantrakalpakhaṇḍa.

D	sDe dge ed. no. 488, ta, 173r5–174r1.
P	Peking ed. no. 120, ta, 178r7–179r4.
C	Co ne ed. no. 123, ta, 190v3–191v2.
L	London (Sel dkar) MS. no. 353, ña, 31r5–32r2.
N	Narthan ed. no. 438, ña, 328r3–329r4.
S	sTog Palace ed. no. 447, ña, 35r3–36r4.
T	Toyo Bunko, Tokyo (Kawaguchi) MS. no. 441-(2), ña, 31r4–32r2.
Ph	Phug brag MS. no. 477, tha, 128v5–7.

Śrīparamādyā-ṭikā.

<i>Ṭikā</i> D	sDe dge ed. no. 2512, hi, 1v1–8r4.
<i>Ṭikā</i> P	Peking ed. no. 3335, ri, 1v1–11r6 ^{*17} .

5. 略号および記号

本論文で使用される略号および記号は以下の通りである。

AdhŚ	<i>Ādhyardhaśatikā Prajñāpāramitā</i> (ed. TOMABECHI 2009)
AdhŚ _{Tib}	Tibetan text of the AdhŚ (ed. TOMABECHI 2009)
AAĀ	<i>Abhisamayālaṅkāralokā</i> (ed. WOGIHARA 1932–1935)
AP	<i>Abhayapaddhati</i> (ed. DORJE 2009)

^{*17} *Ṭikā* P には混乱がある。11r6 までが「冒頭章」1*.3(得益)に関する註釈であり、11r7 より、突如「大乗金剛秘密」本来の第1章冒頭部の註釈に移っている。したがって、*Ṭikā* P は、「冒頭章」1*.3(得益)の最終部から1*.4(章末コロフォン)に対する註釈を欠いている。

Vḍ	<i>Vajradākamahātantrarāja</i> (ed. SUGIKI 2002)
法賢訳	最上根本大楽金剛不空三昧大教王経
不空訳	大楽金剛不空真実三麼耶経
理趣积	大楽金剛不空真実三昧耶経般若波羅蜜多理趣积
<i>ac</i>	before correction
<i>em.</i>	emended
<i>om.</i>	omitted
<i>pc</i>	after correction
↑	śad
∥	ñis śad

TEXT

ཀྱི་གར་སྐད་དུ། ལྷི་པ་ར་ལྷ་བྱ་མ་རྒྱ་ཀ་ལྷ་ལ་རྩ་རྒྱ་མ།
བོད་སྐད་དུ། དཔལ་མཚོག་དང་པོའི་སྟགས་ཀྱི་རྟོག་པའི་དུས་བུ་ཞེས་བྱ་བ།
བཅོམ་ལྷན་འདས་བདེ་བ་ཚེན་པོ་ལ་ཕྱག་འཚལ་ལོ།

Ch. 1* 【冒頭章：五種秘密三摩地章】

1*.1 五句

[D 173r5 ; P 178r7 ; C 190v3 ; L 31r5 ; N 327r3 ; S 35r3 ; T 31r4]

[(Tīkā D) 1v4 ; (Tīkā P) 2r3]

[AdhyŚ 37]

- 1.1 དེ་ནས་བཅོམ་ལྷན་འདས་རྣམ་པར་སྤང་མཛད་དེ་བཞེན་གཤེགས་པ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་གསང་བའི་ཚོས་ཉིད་བརྟེན་པ།
- 1.2 ཚོས་ཐམས་ཅད་སྟོབས་པ་མེད་པས་ཡང་བདེ་བ་ཚེན་པོ་རྫོ་རྩེ་དོན་ཡོད་པའི་དམ་ཚིག་ཅེས་བྱ་བ། རྫོ་རྩེ་ཚོས་ཉིད་
- 1.3 ཤེས་རབ་ཀྱི་མ་རོལ་ཏུ་བྱིན་པའི་སྟོ་དཔལ་མཚོག་དང་པོ། ཐོག་མ་དང་། ཐ་མ་དང་། དབུས་མེད་པའི་དམ་པ་འདི་
- 1.4 གསུངས་སོ། །
- 1.5 (1) བྱང་རྒྱབ་སེམས་དཔའ་ཚེན་པོ་རྣམས་ཀྱི་འདོད་ཆགས་ཚེན་པོའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པ་ནི་བདེ་བ་ཚེན་པོའི་དངོས་
- 1.6 གྲུབ་དམ་པར་འགྱུར་རོ། ། (P 178v)
- 1.7 (2) བྱང་རྒྱབ་སེམས་དཔའ་ཚེན་པོ་རྣམས་ཀྱི་བདེ་བ་ཚེན་པོའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པ་ནི་དེ་བཞེན་གཤེགས་པ་ཐམས་
- 1.8 ཅད་ཀྱི་བྱང་རྒྱབ་ཚེན་པོའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པར་འགྱུར་རོ། །
- 1.9 (3) དེ་བཞེན་གཤེགས་པ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་བྱང་རྒྱབ་ཚེན་པོའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པ་ནི་བདུད་ཚེན་པོའི་སྟོབས་ཐམས་ཅད་
- 1.10 རབ་ཏུ་འཛོམས་པར་ (D 173v) བྱིད་པའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པར་འགྱུར་རོ། །
- 1.11 (4) བྱང་རྒྱབ་སེམས་ (L 31v) དཔའ་ཚེན་པོ་རྣམས་ (S 35v) ཀྱི་བདུད་ཚེན་པོའི་ (N 327v) སྟོབས་ཐམས་ཅད་རབ་ཏུ་
- 1.12 འཛོམས་པའི་དངོས་ (T 31v) གྲུབ་དམ་པ་ནི་ལམས་གསུམ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་དབང་རྒྱག་ཚེན་པོའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པར་
- 1.13 འགྱུར་རོ། །

1.1 kyi || DPCLNS; kyis T 1.2 pas || DLNST; pa PC 1.3 thog ma dan | tha ma dan | || DPCNST; thog ma dan L; thog ma tha ma med (Tīkā DP) 1.3 dbus med pa'i dam pa || DPCLNST; dbus mchog (Tīkā DP) 1.5 chen po || DPLNST; om. C 1.5 kyi || DCLNST(Tīkā DP); kyis P 1.9 de bzin gsegs pa thams cad kyi || DPCLNST; byañ chub sems dpa' chen po rnams kyi de bzin gsegs pa thams cad kyi (Tīkā P); byañ chub sems dpa' chen po rnams kyis de bzin gsegs pa thams cad kyi (Tīkā D) 1.11 chen po || em. ← AdhyŚ_{Tib}; om. DPCLNST 1.11 stobs thams cad || em. ← AdhyŚ_{Tib}; stobs DLNST; stobs rnams kyi bdud chen po'i stobs PC 1.12 kyi || DPC; om. LNST

1.14 (5) བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔའ་ཚེན་པོ་རྣམས་ཀྱི་^(C 191r)ཁམས་གསུམ་པ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་དབང་ཕྱག་གི་དངོས་གྲུབ་
 1.15 དམ་པ་ནི་སེམས་ཅན་གྱི་ཁམས་མ་ལུས་ཤིང་ལུས་པ་མེད་པ་ཡོངས་སུ་སྦྱོང་བར་འདོད་པའི་རྒྱའི་ཕྱིར། འཁོར་བ་
 1.16 ལ་ཡང་མ་ཆགས་ཤིང་བརྩོན་འགྲུས་ཚེན་པོའི་བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔའ་རྣམས་ཀྱི་སེམས་ཅན་གྱི་ཁམས་མ་ལུས་ཤིང་
 1.17 ལུས་པ་མེད་པ་རྣམས་ཡོངས་སུ་བསྐྱབ་པ་དང། སེམས་ཅན་ཐམས་ཅད་ལ་ཕན་པ་དང། བདེ་བའི་མཚོག་ཤིན་ཏུ་
 1.18 བདེ་བ་ཚེན་པོའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པར་འགྱུར་རོ།།

[Ph 128v5]

1.19 དེ་ནས་བཅོམ་ལྷན་འདས་རྣམ་པར་སྤང་མཛད་དེ་བཞིན་གཤེགས་པ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་གསང་བའི་ཚོས་ཉིད་བརྟེན་པ།
 1.20 ཚོས་ཐམས་ཅད་སྦྱོར་པ་མེད་པ། ཡང་བདེ་བ་ཚེན་པོ་རྫོ་རྗེ་དོན་ཡོད་པའི་དམ་ཚིག་ཅེས་བྱ་བ། རྫོ་རྗེ་ཚོས་ཉིད་ཤེས་
 1.21 རབ་ཀྱི་མ་རོལ་ཏུ་ཕྱིན་པའི་སྣོ་དཔའ་མཚོག་དང་པོ་ཐོག་མ་དང་ཐ་མ་དབྱས་མེད་པའི་དམ་པ་འདི་གསུངས་སོ།།
 1.22 (1) བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔའ་ཚེན་པོ་རྣམས་ཀྱི་འདོད་ཆགས་ཚེན་པོའི་བདེ་བ་ཚེན་པོའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པར་འགྱུར་
 1.23 རོ། །
 1.24 (2) བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔའ་ཚེན་པོ་རྣམས་ཀྱི་བདེ་བ་ཚེན་པོའི་དངོས་^(Ph 129r)གྲུབ་དམ་པ་ནི་དེ་བཞིན་གཤེགས་པ་
 1.25 ཐམས་ཅད་ཀྱི་བྱང་རྒྱལ་ཚེན་པོའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པར་འགྱུར་རོ། །
 1.26 (3) དེ་བཞིན་གཤེགས་པ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་བྱང་རྒྱལ་ཚེན་པོའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པ་ནི་བདུད་ཚེན་པོའི་སྦྱོབས་རབ་ཏུ་
 1.27 གཞོམ་པའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པར་འགྱུར་རོ། །
 1.28 (4) བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔའ་རྣམས་ཀྱི་བདུད་ཚེན་པོ་རབ་ཏུ་འཛོམས་པའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པ་ནི། ཁམས་གསུམ་པ་
 1.29 ཐམས་ཅད་ཀྱི་དབང་ཕྱག་ཚེན་པོའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པར་འགྱུར་རོ། །
 1.30 (5) བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔའ་རྣམས་ཀྱི་ཁམས་གསུམ་པ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་དབང་ཕྱག་གི་དངོས་གྲུབ་དམ་པ་ནི། སེམས་
 1.31 ཅན་གྱི་ཁམས་མ་ལུས་ཤིང་ལུས་པ་མེད་པའི་ཡོངས་སུ་སྦྱོང་བར་འདོད་པའི་རྒྱའི་ཕྱིར་འཁོར་བ་ཡང་མ་ཆགས་ཤིང་
 1.32 བརྩོན་འགྲུས་ཚེན་པོའི་བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔའ་རྣམས་ཀྱི་སེམས་ཅན་གྱི་ཁམས་མ་ལུས་ཤིང་ལུས་པ་མེད་པ་ཡོངས་
 1.33 སུ་བསྐྱབ་པ་དང། སེམས་ཅན་ཐམས་ཅད་ལ་ཕན་པ་དང་བདེ་བ་ཚེན་པོའི་དངོས་གྲུབ་དམ་པར་འགྱུར་རོ།།

1*.2 百字偈

[D 173v3 ; P 178v5 ; C 191r3 ; L 31v3 ; N 327v4 ; S 35v4 ; T 31v3]

[(Tikā D) 5r1 ; (Tikā P) 5v6]

1.14 chen po || em. Adhy^S_{T.2b}; om. DPCLNST 1.15 med pa || PC; med par DLNST 1.15 sbyon
 bar || DCLNST; spyod par P 1.15 rgyu'i || DPCST; rgyud LN 1.15-16 'khor ba la yañ ma chags
 śiñ || DPCLNST; rtag tu 'khor bar 'jug pa rñams kyi (Tikā DP); Cf. 菩薩常處輪迴 法賢記 1.16 kyi ||
 PC(Tikā P); kyi DLNST(Tikā D) 1.17 bskyab || DPCST; skyab LN; skyob (Tikā DP) 1.17 phan pa dan
 || DPCT; phan pa LNS

[Adhyś 38]

2.1 དེ་ཅིའི་ཕྱིར་ཞེ་ན།

2.2 ཅི་སྲིད་འཁོར་བའི་གནས་སུ་ནི། མཁས་མཚོག་འདུག་པར་གྱུར་པའི་ཚོ།
2.3 དེ་སྲིད་མཚུངས་མེད་སེམས་ཅན་དོན། ལྷ་དན་མི་འདའ་བྱེད་པར་རུས། 11

2.4 ཤེས་རབ་པ་ལོ་ཕྱིན་ཐབས་དང། ཡེ་ཤེས་གནས་སུ་བསྐྱབས་པས་ནི།
2.5 ཚོས་ཀུན་རྣམ་པར་དག་པའི་ཕྱིར། འཁོར་བ་ཡོངས་སུ་དག་པར་འགྱུར། 12

2.6 ཆགས་ལ་སོགས་པས་འདུལ་ན་ནི། འཁོར་བའི་བར་དུ་རྟག་པར་ཡང།
2.7 འཇིག་རྟེན་སྲིག་བྱེད་དེ་སྤྱང་ཕྱིར། འཁོར་བ་སྲིད་དུ་བདག་ཉིད་འདུལ། 13

2.8 ཅི་ལྟར་སྤྲོ་རབ་དམར་ཡང། ཚོན་གྱི་ཉེས་པས་མི་གོས་པ།
2.9 དེ་བཞིན་གནས་གྱི་ཉེས་པ་ཡིས། འགྲོ་པར་རྣམས་ལ་མི་གོས་སོ། 14

2.10 འདོད་ཆགས་ཆེན་པོ་རྣམ་པར་དག། བདེ་བ་ཆེན་པོ་ནོར་ཆེ་ལ།
2.11 ལམས་གསུམ་དབང་ལྷག་ཐོབ་པས་ན། སེམས་ཅན་དོན་(P 179r) རྣམས་(S 36r) བརྟན་(N 328r) པར་
2.12 བྱེད། 15

[Ph 129r6]

2.13 དེ་ཅིའི་ཕྱིར་ཞེ་ན།

2.14 ཅི་སྲིད་འཁོར་བའི་གནས་སུ་ནི། མཁས་མཚོག་བདུག་པར་གྱུར་པའི་ཚོ།
2.15 དེ་སྲིད་མཚུངས་མེད་སེམས་ཅན་དོན། ལྷ་དན་མི་འདའ་བྱེད་པར་རུས། 11

2.16 ཤེས་རབ་པ་ལོ་ཕྱིན་ཐབས་དང། ཡེ་ཤེས་གནས་སུ་བསྐྱབས་པས་ན།

2.2 ci srid 'khor ba'i gnas su ni || ... mya ñan mi 'da' byed par nus || yāvata saṃsāravāsasthā bhavanti varasārayaḥ / tāvata sattvārtham atulaṃ śaktāḥ kartum anirvṛtāḥ // AAĀ p.132, 6-7.; AP p.7, 7-8; VD, p.89, v.25

2.2 ci || DPLCNT; ji S(Tīkā DP) 2.3 de || DPCST(Tīkā DP); ji LN 2.4 rab || DCLNST; rab kyi P 2.4 ye || DPCNST; yes L 2.4 pas || DCLNST; nas P 2.7 sbyañ || DPCST; sbyar LN 2.7 'dul || || DPCS; 'bul || LNT 2.8 ci || DPCT; ji LNS(Tīkā DP) 2.8 yañ || (Tīkā DP); ba || DPCLNST 2.8 tshon || C(Tīkā DP); 'dam DLNST; mtshon P 2.8 gyi || PCLNST; gyis D(Tīkā DP) 2.8 gos pa || DC; gos pas || PLNS; dgos pas || T 2.9 kyi || DC(Tīkā DP); pa'i PLNST 2.11 thob || DPC; thos LNST 2.11 pas || DLNST; pa PC 2.11 brtan || PC(Tīkā DP); ston DST; bstan LN

- 2.17 ཚོས་ ཀུན་ རྣམ་ པར་ དག་ པའི་ ཕྱིར། ། འཁོར་ བ་ ཡོངས་ སུ་ དག་ པར་ འབྱུང། ། 2]
- 2.18 ཆགས་ ལ་ སོགས་ པས་ འདུལ་ ན་ ཉི། ། (Ph 129v) འཁོར་ བའི་ བར་ དུ་ རྟག་ པར་ ཡང། །
- 2.19 འཇིག་ རྟེན་ བདེ་ བྱེད་ དེ་ སྦྱང་ ཕྱིར། ། འཁོར་ བ་ སྲིད་ དུ་ བདག་ ཉིད་ འདུལ། ། 3]
- 2.20 ཇི་ ལྟར་ བདག་ མ་ རབ་ དམར་ ཡང། ། ཚོན་ གྱི་ ཉེས་ པས་ མི་ གོས་ པས། །
- 2.21 དེ་ བཞིན་ གནས་ པའི་ ཉེས་ པ་ ཡིས། ། འགོ་ བན་ རྣམས་ ལ་ མི་ གོས་ སོ། ། 4]
- 2.22 འདོད་ ཆགས་ ཚེན་ མོ་ རྣམ་ པར་ དག། བདེ་ བ་ ཚེན་ མོ་ རྣམ་ ཚེ ལ། །
- 2.23 འམས་ གསུམ་ དབང་ ལྷག་ ཐོབ་ པས་ ན། ། སེམས་ ཅན་ རོན་ རྣམས་ བརྟན་ པར་ བྱེད། ། 5]

1*3 得益

[D 173v6 ; P 179r1 ; C 191r7 ; L 31v7 ; N 328r1 ; S 36r1 ; T 31v7]

[(*Tikā* D) 7r7 ; (*Tikā* P) 10v6]

[AdhyŚ 39]

- 3.1 གང་ ལ་ ལ་ ཞིག་ ནང་ པར་ ལངས་ ནས་ དཔལ་ མཚོག་ དང་ མོ་ ཤེས་ རབ་ གྱི་ བ་ རོལ་ ཏུ་ ཕྱིན་ པའི་ ཚུལ་ གྱི་ སློའི་ ཚོས་ གྱི་
- 3.2 རྣམ་ གངས་ འདི་ ཉིན་ རེ་ ཞིང་ འདོན་ པ་ དང། ཉན་ པ་ དང། འཛོན་ པ་ དང། སློག་ པ་ དང། སློམ་ པ་ དེ་ ཡིས་ བདེ་ བ་ དང།
- 3.3 ཡིད་ བདེ་ བ་ ཐམས་ ཅད་ ཀྱང་ ཐོབ་ པར་ འབྱུང་ རོ། ། བདེ་ བ་ ཚེན་ མོའི་ རྗེ་ རོན་ ཡོད་ པའི་ དམ་ ཚོག་ གི་ དངོས་ གྲུབ་ གྱི་
- 3.4 མཚོག་ ཀྱང་ (C 191v)(L 32r) ཚོ་ འདི་ ལ་ ཐོབ་ པར་ འབྱུང་ རོ། ། དེ་ བཞིན་ གཤེགས་ པ་ (T 32r) ཐམས་ ཅད་ གྱི་ གསང་ བ་
- 3.5 མཚོག་ ཀྱང་ འབྲུབ་ སྟེ། རྗེ་ རྗེ་ འཛོན་ པ་ ཚེན་ མོ་ ཐམས་ ཅད་ དམ། དེ་ བཞིན་ གཤེགས་ པར་ (D 174r) འབྱུང་ རོ།

[Ph 129v3]

- 3.6 ནང་ པར་ ལངས་ ནས་ མཚོག་ དང་ མོ་ ཤེས་ རབ་ གྱི་ བ་ རོལ་ ཏུ་ ཕྱིན་ པའི་ ཚུལ་ གྱི་ སློའི་ ཚོས་ གྱི་ རྣམ་ གངས་ འདི་ ཉིན་ རེ་
- 3.7 ཞིང་ འདོན་ པ་ དང། ཉན་ པ་ དང། འཛོན་ པ་ དང། སློག་ པ་ དང། བསློམ་ པ་ དེ་ ཡིས་ བདེ་ བ་ དང་ ཡིད་ བདེ་ བ་ ཐམས་
- 3.8 ཅད་ ཐོབ་ པར་ འབྱུང་ རོ། ། བདེ་ བ་ ཚེན་ མོ་ རྗེ་ རོན་ ཡོད་ པའི་ དམ་ ཚོག་ གི་ དངོས་ གྲུབ་ གྱི་ མཚོག་ ཀྱང་ ཚོ་ འདི་ ཉིད་
- 3.9 ལ་ ཐོབ་ པར་ འབྱུང་ རོ། ། དེ་ བཞིན་ གཤེགས་ པ་ ཐམས་ ཅད་ གྱི་ གསང་ བ་ མཚོག་ ཀྱང་ འབྲུབ་ སྟེ། རྗེ་ རྗེ་ འཛོན་ པ་ ཚེན་
- 3.10 མོ་ ཐམས་ ཅད་ དམ། དེ་ བཞིན་ གཤེགས་ པར་ འབྱུང་ རོ།

2.23 rnams ། corr.; la mas Ph 3.1 gañ la la žig ། DCS; om. PLNT 3.2 žiñ ། DPCT; bžin LNS
 3.2 'dzin ། PCST; dzin DLN 3.3 po'i ། DLNST; po PC 3.3 gi ། DT; om. PCLNS 3.4 ro ། །
 DCLNST; om. P

1*.4 【章末コロフォン】

[D 174r1 ; P 179r3 ; C 191v1 ; L 32r1 ; N 328r3 ; S 36r3 ; T 32r1]

[(*Tīkā* D) 8r3 ; (*Tīkā* P) —]

- 8.1 བདེ་བ་ཚེན་པོ་རྫོང་རྫོན་ཡོད་པའི་དམ་ཚིག་དཔལ་མཚོག་དང་པོ་ལས། དེ་བཞིན་གཤེགས་པ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་བདེ་
8.2 བ་ཚེན་པོ་རྫོང་གསང་བའི་ཤེས་རབ་ཀྱི་པ་རོལ་དུ་བྱིན་པའི་སྐོར་རྫོགས་སོ། །

[Ph 129v5]

- 8.3 བདེ་བ་ཚེན་པོ་རྫོང་རྫོན་ཡོད་པའི་དམ་ཚིག་དཔལ་མཚོག་དང་པོ་ལས། དེ་བཞིན་གཤེགས་པ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་བདེ་
8.4 བ་ཚེན་པོ་རྫོང་གསང་བའི་ཤེས་རབ་ཀྱི་པ་རོལ་དུ་བྱིན་པའི་སྐོར་རྫོགས་སོ། །

参考文献

1. 一次文献

a. サンスクリット語文献

Adhyardhaśatikā Prajñāpāramitā. (→AdhŚ): TOMABECHI, Toru (ed.) *Adhyardhaśatikā Prajñāpāramitā Sanskrit and Tibetan Texts* (Sanskrit Text: pp.3–28). China Tibetology Publishing House · Austrian Academy of Sciences Press. Beijing–Vienna. 2009.

Abhayapaddhati. (→AP) DORJE, Chog (ed.) *Abhayapaddhati of Abhayākaragupta, Commentary on the Buddhakapālamahātantra*. Central Institute of Higher Tibetan Studies. Varanasi. 2009.

Abhisamayālaṅkāralokā. (→AAĀ) WOGIHARA, Unrai (ed.) *Abhisamayālaṅkāralokā Prajñāpāramitāvyaḥkyā (Commentary on Aṣṭasāhasrikā-prajñāpāramitā) by Haribhadra together with the text commented on*. The Toyo Bunko. Tokyo. 1932–1935.

Vajraḍākamahātantrarāja. (→VD) SUGIKI, Tsunehiko (ed.) *A critical Study of The Vajraḍākamahātantrarāja (I): Chapter. 1 and 42*. Chisan Gakuhō (智山学报), vol.51, pp.81–115. 2002.

b. チベット語文献

8.2 so || DCLNST; s+ho || P 8.3 pa'i || MS^{ac}; par MS^{pc}

rNal 'byor rgyud kyi rgya mtshor 'jug pa'i gru gziñs, by Bu ston Rin chen grub. :

CHANDRA, Lokesh (ed.) *The collected works of Bu-ston*, pt.11(Da): Śāta-piṭaka series, vol.51. International Academy of Indian Culture. New Delhi. 1968.

'Phags pa śes rab kyi pha rol tu phyin pa'i tshul brgya lha bcu pa. Translation of *Adhyardhaśatikā Prajñāpāramitā*. (→AdhŚ_{Tib}): TOMABECHI, Toru (ed.) *Adhyardhaśatikā Prajñāpāramitā Sanskrit and Tibetan Texts* (Tibetan Text: pp.31–73). China Tibetology Publishing House • Austrian Academy of Sciences Press. Beijing–Vienna. 2009.

c. 漢訳文献

大楽金剛不空真実三摩耶經 (→ 不空訳) 不空訳. 大正 No.243. Vol.8, 784a–786b.

最上根本大楽金剛不空三昧大教王經 (→ 法賢訳) 法賢訳. 大正 No.244. Vol.8, p.786b–p.824a.

大楽金剛不空真実三昧耶經般若波羅蜜多理趣積 (→ 理趣積) 不空訳. 大正 No.1003, vol.19, 607a–617b.

2. 二次文献

a. 和文

加納和雄. 2011 「書評: 苦米地等流校訂 *Adhyardhaśatikā Prajñāpāramitā, Sanskrit and Tibetan Texts*」 『密教学研究』 vol.43, pp. 205–223.

川越英真. 1982 「Rin chen bzañ po の生涯とその活動」 『文化』 vol.46, no.1–2, pp. 44–73.

川越英真. 1984 「rÑog Blo ldan śes rab と彼をめぐる人々」 『印度学仏教学研究』 vol.64(32-2), pp. 114–118.

川崎一洋. 2011 「五秘密曼荼羅について」 『智山学報』 vol.60, pp. 85–100.

五島清隆. 2003 「チベット訳テキスト校訂と写本大蔵経—『思益梵天所問經』を中心に—」 『印度学仏教学研究』 vol.103(52-1), pp. 53–58.

佐藤直美. 2001 「『阿闍佉国經』チベット語訳資料について」 『日本仏教会年報』 vol.66, pp. 35–48.

田中公明. 2010 『インドにおける曼荼羅の成立と展開』 春秋社

津田明雅. 2015 「*Bhavasamkrāntisūtra* のブダク写本」 『印度学仏教学研究』 vol.137(64-1), pp. 164–169.

梅尾祥雲. 1930 『理趣經の研究』 高野山大学出版部

徳重弘志. 2015a 「『理趣広經』「真言分」のブダク写本について」 『高野山大学密教文化研究所紀要』 vol.28, pp. (147)–(165).

- 徳重弘志, 2015b 「『理趣広経』のブダク写本と『吉祥最勝本初広釈』との関連性について」『印度学仏教学研究』vol.135(63-2), pp. 101–105.
- 苦米地等流, 2017 「Abhayākaragupta 作 *Āmnāyamañjarī* 所引文献—新出梵文資料第1~4章より—」『大正大学総合佛教研究所年報』vol.39, pp. (99)–(136).
- 福田亮成, 1987 『理趣経の研究: その成立と展開』国書刊行会
- 松長有慶, 2006 『理趣経講讃』大法輪閣
- 『理趣広経』の翻訳研究会 (現密教聖典研究会). 2013. 「Śrīparamādyā 校訂テキスト 第1章」『大正大学総合佛教研究所年報』vol.35, pp. (134)–(166).
- 『理趣広経』の翻訳研究会 (現密教聖典研究会). 2014. 「Śrīparamādyā 校訂テキスト 第2章・第3章」『大正大学総合佛教研究所年報』vol.36, pp. (141)–(161).
- 『理趣広経』の翻訳研究会 (現密教聖典研究会). 2015. 「Śrīparamādyā 校訂テキスト 第4章・第5章」『大正大学総合佛教研究所年報』vol.37, pp. (69)–(85).
- 『理趣広経』の翻訳研究会 (現密教聖典研究会). 2016. 「Śrīparamādyā 校訂テキスト 第6章・第7章」『大正大学総合佛教研究所年報』vol.38, pp. (127)–(147).
- 密教聖典研究会. 2017. 「Śrīparamādyā 校訂テキスト 第8章・第9章・第10章・第11章」『大正大学総合佛教研究所年報』vol.39, pp. (49)–(77).
- 密教聖典研究会. 2018. 「Śrīparamādyā 校訂テキスト 第12章・第13章・第14章」『大正大学総合佛教研究所年報』vol.40, pp. (123)–(142).

b. 欧文

- HARRISON, Paul. 1992. *Druma-kinnara-rāja-paripṛcchā-sūtra: A Critical Edition of the Tibetan Text (Recension A) based on Eight Editions of the Kanjur and the Dunhuang Manuscript Fragment*, Studia Philologica Buddhica, Monograph Series VII, Tokyo. The International Institute for Buddhist Studies.
- SILK, Jonathan A. 1994. *The Heart Sūtra in Tibetan: A Critical Edition of the Two Recensions Contained in the Kanjur*, Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde 34, Vienna. Arbeitskreis für Tibetische und Buddhistische Studien Universität Wien.
- SKILLING, Peter. 1994. *Mahāsūtras: Great Discourses of the Buddha*, vol.1, Sacred Books of the Buddhists 44, Pāli Text Society, Oxford.
- TOMABECHI, Toru. 2009. →*Adhyardhaśatikā Prajñāpāramitā Sanskrit and Tibetan Texts* (Introduction).
- ZIMMERMANN, Michael. 2002. *A Buddha Within: The Tathāgatagarbhasūtra: The Earliest Exposition of the Buddha-Nature Teaching in India*, Bibliotheca Philologica

(60)

et *Philosophica Buddhica* VI, Tokyo. The International Research Institute for Advanced Buddhology, Soka University.